

KM 学会 2009 年年次大会写真レポート

2009年3月7日(土) 於:名古屋市 名城大学天白キャンパス 9:30~17:00

テーマ:「創造性と知」—Unique Business Model on MONODUKURI—

(作成:松本優)



(名城大学の門のところ)



(大会の行われた共通講義棟)

◆開会行事



(司会の西浦道明氏(株アタックス代表取締役))



(KM 学会の旗も掲揚(貼って))



(大会委員長大西幹弘名城大学教授の開会の挨拶)



(KM 学会理事長挨拶 森田松太郎理事長)



(参加者の様子)



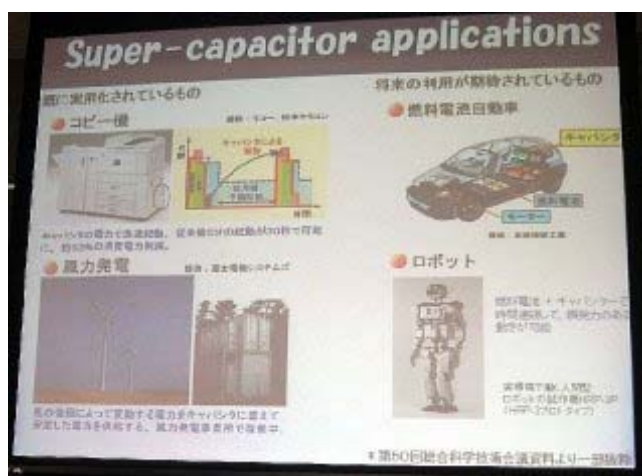
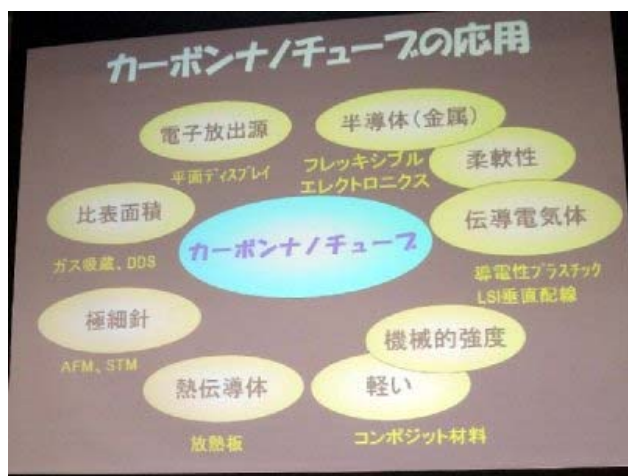
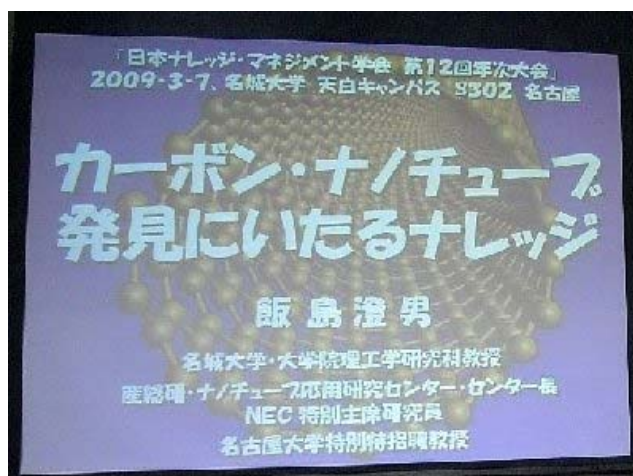
◆特別講演 1: 飯島澄男 名城大学大学院理工学研究科教授

「カーボン・ナノチューブ発見にいたるナレッジ」

飯島先生はカーボン・ナノチューブの発見者で、毎年ノーベル賞候補に挙げられる方です。
近い将来先生がめでたくノーベル賞を受賞された暁に「私はこの先生の講義を聞いたぞ!」と自慢出来ることを期待しています。



(飯島澄男教授)



カーボン・ナノチューブはこんな方面(分野)で役に立っているそうです。(虫眼鏡で読めますかね)
右図は具体例です。左下はちょっとはっきり見えませんが風力発電の風車の写真です。



自然の現象を観察し、好奇心から疑問を抱き、色々分析して理解し、発見し公开发表という行動をすることが大切。
写真右は大勢の人が熱心に聴きました。

●飯島先生のお話の概要

飯島先生は、はじめに素人の我々にカーボン・ナノチューブ (CNT) とは何か、それはどんなことに役立つのかと
いったことからやさしく話してくださいました。

その中で1つの利用例としてCNTは強力なキャパシタ (昔の言い方ならコンデンサ) としてリコーのコピー機の省
エネに役立っている。つまり従来のコピー機はいったん電源を切ると次に電源を入るとトナーの定着の部分
を熱するのに時間がかかって約5分ぐらい経たないと使えなかったのが、このCNTのスーパーキャパシタを使うと
30秒以下 (最近では10秒ぐらい) で急速に立ち上がるようになった。それで使わないときは電源を切っても良い
ことになった (実際は使用設定条件当保持のため微電力でスリープモードになっているようですが)。スリープ
からすぐ目覚めて使えるので、今までの約5分ぶんのウォーミングアップ時の電力が節約でき約60%も消費電力削
減になり、かつお客様にもすごく便利になったという話は (筆者の元勤め先の商品の話なので) よく理解できた。
その他にも今注目の電気自動車 (燃料電池自動車) やロボットにも電池+キャパシタで長時間の瞬発力ある動き
 (つまり急に大量の電力を必要とするときのために貯めておき放出する) 場面で大いに役に立っているわけです。
またこれから注目の、風力発電でも作った電気をキャパシタに貯めて安定して送り出す。これらの様な使い方は
文科系の筆者にも良くわかった。また、フレキシブルディスプレイ (電子ペーパー) にも応用できるそうです。

次に先生の今までの研究の歩み、とその成果を色々表彰されたことも含めてお話になった。
飯島先生の研究成果や受賞歴については長くなり紹介しきれないので以下を参考にしてください。

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%A3%AF%E5%B3%B6%E6%BE%84%E7%94%B7>

以下、技術的なことは良くわからなかったけど断片的に印象に残ったことを書きますと、

★どうやって発見したかの話しの中で、何事も観察が大切だ、発見などは偶然といわれる場合もあるが、そう
ではなく必然である。(なぜだ? ああでもないこうでもない色々試してよく観察していないと決して発見は出来な
い) **「発見は偶然ではなく必然だ」** 名言ですね。

★5つの「みる」について

視る : 注意してよく見る 視察
見る : 物の存在、形、ようすなど、を目にとめる一見物
観る : みくらべて考える一観察
診る : すみずみまで見て、その事柄について判断する一診察
看る : みまもる一看病

について話された後、みる手段として光で蝶の鱗粉や星を見て、X線でDNAや宇宙は見、電子線でナノチューブ
を見るのだそうで先生は電子顕微鏡の一人者、電子顕微鏡を駆使してCNTを発見された。

★KM学会の大会ということで、研究所のマネジメントについても話してくださいました。

*研究は人が行う

*いい研究をするためには優秀な研究者を集める

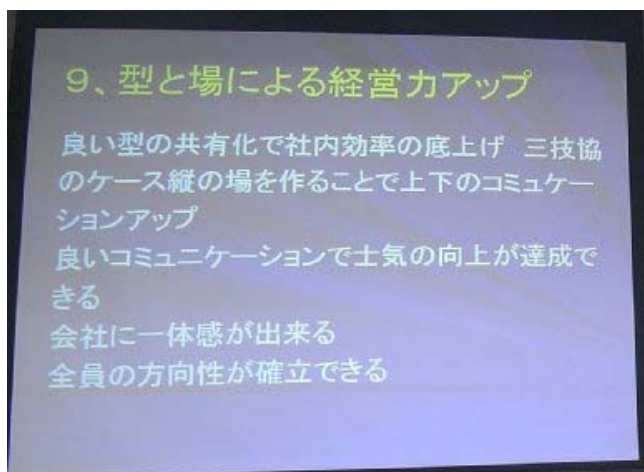
*良い研究者を集めるには良い研究を世界に向けて発信する

*良い仕事をする研究室には良い研究者が集まる

として産業技術総合研究所ナノチューブ応用研究センターの紹介もされた。

★最後はCNTの今後の展望、今どんな研究をしていて今後どんなものが出てくるかのロードマップも示された。

◆特別講演 2: 森田松太郎 日本ナレッジ・マネジメント学会理事長
「経営は型と場で成長する」



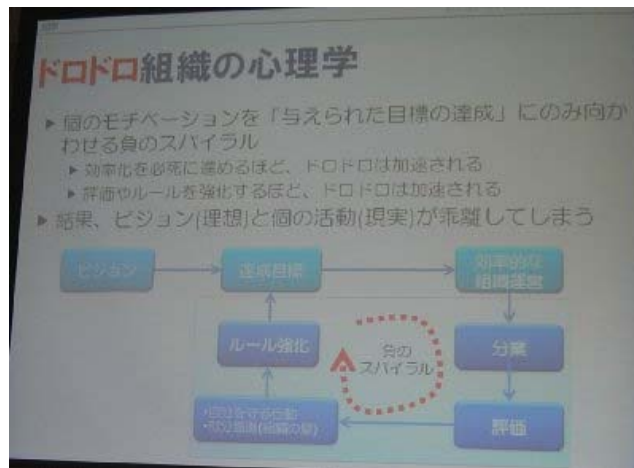
(森田理事長)

森田理事長は知の源は型と場であり**経営は型と場で成長する**というお話をされた。

会社には永年に亘って蓄積された知の結晶である「型」(仕事のやり方や標準など)がある。新入社員はまずその型をマスターし共有する(習)そしてそれを守る(守)その上で自己研鑽、切磋琢磨して型を破り(破)、イノベーションを起こす(離)、そしてそれがまたその会社のあたらしい「型」になり次に引き継がれる。(習・守・破・離のサイクルで会社は成長する)その型を破る部分を助けるが「場」作りが大切である。

★詳しくは日本ナレッジ・マネジメント学会編**「型と場のマネジメント」** かんき出版 2008.11.18 発行 B6 判 191 頁 定価 1600 円+税 ISBN978-7612-6548-9 の**序章:経営は「型」と「場」で成長する**(森田氏記述)の部分をお読みください。尚、この本の執筆者は森田松太郎、加護野忠男、松本雄一、木田昌樹、大西幹弘、梅本勝博、中森孝文、野村恭彦、植木英雄、植木真理子氏です。

◆特別講演 3: 野村孝彦 富士ゼロックス KDI シニアマネージャー
「1 億人のナレッジ・マネジメント(サラサラの組織をめざして)」



(野村恭彦氏)

野村さんはドロドロの組織を超えて(変革して)知的生産性の高いサラサラ組織をつくるためにどうしたらいいかということについて示唆に富んだ話をされた。

人間ではドロドロ血とかサラサラ血とかいいいますが、「血」を「知」に置き換えて、ドロドロの組織とは知の流れの悪い古いタイプの組織、サラサラの組織とは知の流れの良い、めざしたい組織を意味しています。

今多くの会社が陥っているドロドロの組織の問題点を挙げそれをいかにしてサラサラの組織に変えていくか、イラスト漫画を交えてわかりやすくスマートにサラサラッと話された。() 数行ではまとめきれないので野村氏が中心になってまとめられた以下近著を参照してください。7 割方書かれています。

この本にかかれていないこととして、組織(企業)を越えて対話をする「場」=「フューチャーセンター」が必要として、外国のフューチャーセンターの例なども示された。

★**サラサラの組織ーあなたの会社を気持ちいい組織に変える、七つの知恵ー**

共著:富士ゼロックス KDI, 野村 恭彦, 仙石 太郎, 荒井 恭一, 紺野 登, 荻野 進介, 監修:野中 郁次郎, 小林陽太郎
出版元:ダイヤモンド社 A5 判 243 頁 ISBN: 9784478007877 定価 ¥1,680 (税込)

◆ 昼食休憩 理事会

◆ 年次総会(写真なし)

◆ 特別プログラム 龍山真澄 (株)シイエム・シイ代表取締役社長、 西浦道明 (株)アタックス代表取締役社長

「逆風の中IPOを果たした高収益企業のナレッジとは」



(西浦道明氏)

(龍山真澄氏)



(身振り手振りよく熱演の龍山社長)



株式会社シイエム・シイはこの厳しい経営環境のなか好業績を保ち 2008 年 12 月 4 日にジャスダックに上場を果たしました。(IPO とは Initial Public Offering の略語で株式市場に上場すること)

当社顧問である(株)アタックスの西浦氏が司会とインタビューアーを担当し、シイエム・シイの龍山社長から力強く発表された。“真のマーケティング・カンパニーとして社会に感動を提供する”ことを経営ビジョンとして、お客様企業や社会の期待を超えるソリューションをご提供することを目指しています、とまず経営理念を語り、トヨタ自動車の修理書や取扱説明書などの作成を一手に引き受け、社員がトヨタに駐在して自動車設計仕様書と現車を確認しながら修理書や取扱説明書などの原稿執筆や編集を行うというきめ細かなサポートでトヨタ自動車に深く食い込み、それを強い経営基盤としながら、他社に対しても社内のメンバーに商品教育や販売教育、発売準備のノウハウ等を支援するインターナル・マーケティングから、その会社のお客様むけの広告、販促、広報などの支援をするエクスターナル・マーケティング、修理マニュアルや取説など作成支援のカスタマーサポート・マーケティングとお客様のマーケティングに関してトータルに支援する「ワンストップ・ソリューション」を提供などで業績を拡大している。

★筆者は後日、トヨタへの依存の強さから現在どうなっているか IR 情報を見てみたが 9 月までの業績見込みは、売上げは計画より減るがコストダウン努力が成功し利益見込みは前回発表より上方修正していたのはさすがである。

◆研究報告 1 久保田秀和氏 産業技術総合研究所情報技術研究部門 「知球:情報の配置デザインを可能とするアーカイブシステム」



(久保田秀和氏)

久保田氏の発表は非常にユニークで、斬新な面白い発想でとても興味深いものでした。地球(地球儀)を模した「知球」をバーチャルな世界のデータの保管場所にして色々な大陸に分類して、見て楽しい知識データの管理のシステムを構築されており、それを実演して見せてくれた。特許申請中とか。

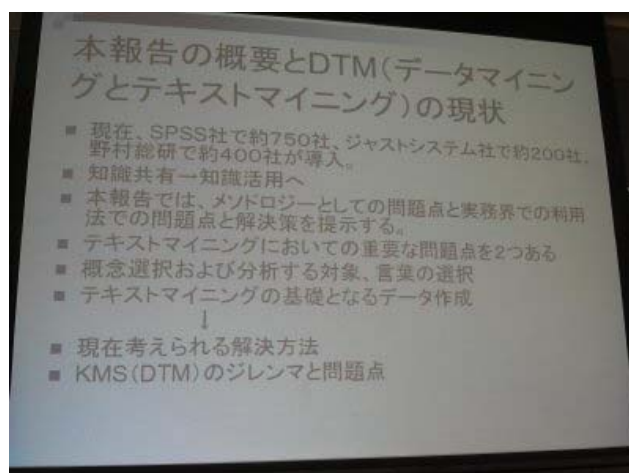
どのデータがどの大陸にあるかが地球(知球)回せば一目でわかり、ビジュアルな検索が楽しみながらすばやく出来るところが素晴らしい。

また **SaasBoard**(絵地図型の Web ページ構築システム)についても話された。これも素晴らしいもので Web 上のホワイトボードまたは画用紙があり、その上に絵や手書き文字、矢印や囲みなども書き込める、もちろんファイルからの写真や文書も持ってきて貼れる。

これは色々な用途が期待できる *遠隔ミーティング、*ワークショップ、*大学などでの講義、*個人、グループの創作ページ、*議論の可視化、*オンラインマニュアル、*掲示板、*寄せ書き(サンプルとして結婚式の寄せ書き)など見せてくれた。

無料お試しのページ→ <http://saasboard.jp/> 有料サービス→ <http://neuronet.co.jp/index.htm>

◆研究報告 2 喜田昌樹氏 大阪学院大学教授 「テキストマイニングの課題と解決方法」



(喜田昌樹教授)

喜田教授はわが国のデータマイニング、テキストマイニングに関する研究者としては著名な方です。独自の調査で普及状態や現状の問題点などを報告され、その解決方法について提言された。

データマイニングとは"データの巨大集合やデータベースから有用な情報(ナレッジ)を抽出する技術、手法(あるいはソフト)を言うのですが、データの山から(有益な知識という)宝を掘り出すというような意味で付けられた名前。テキストマイニングとはデータの中の特にテキストデータの中から自然言語で検索、分析してナレッジを取り出すことです。

★筆者の苦手の分野でうまく伝えられないので氏の参考文献を紹介しておきます。

喜田昌樹著「テキストマイニング入門」白桃書房発行、定価:3,885 円(本体:3,700 円) A4 判 248 頁

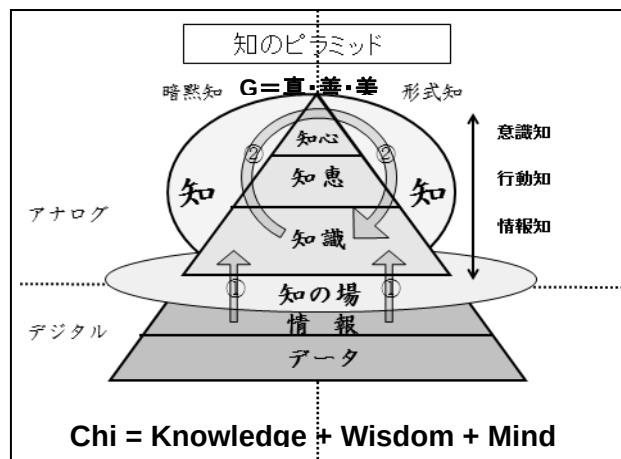
初版:2008 年 02 月 16 日 ISBN:978-4-561-26478-1

◆研究報告 3 高梨智弘氏 日本ナレッジ・マネジメント学会副理事長

「創造の場における『知の経営の方法論』の展開」



(高梨)智弘副理事長



高梨智弘副理事長は前半かなり時間をさいて「**知のピラミッド**」の解説と**ナレッジと知の違い**などを説明し、いわゆるナレッジマネジメント(**知識管理知**)から**知の経営**(Chi-Management)への移行を説かれた。かいつまんで略して書くとも間違ってまづいので、ちょっと長くなりますがその考え方を忠実に紹介します。

1、知のピラミッドの解説：

数値、事実などを表す「データ」は静態的なもので、それだけではなんら経営上の意味をなさない。

その上の「情報」は、データを意味づけしたもので、データと比較すると少々動的である。

「知識」は、ある個人や組織にとって利用価値のある情報であるが、蓄積された静態的な概念でもある。

この知識を活用して実際の行動を起こし、効果が証明されたものを「知恵」と称している。

行動に結びついているため、知恵はどちらかというとき動的といえるかもしれない。

さて、最上段に位置する「知心」は、人の尊厳にも係わるものとして、知の創造と共有に影響を与える、根源的な基盤として人の生まれながらの能力、適性、感情、立場、関係、意志、思い等の多様性を表すものである。

2、ナレッジの意味の拡大：

従来、ナレッジを知識、マネジメントを管理と訳し、ナレッジマネジメントを知識管理と言っていた。

知識と似たものに知恵がある。また、知識・知恵に入らないことは、どう表現すればよいのか？特に、やる気の問題が企業経営の効率化に深く関わっていることは、周知の事実と言えるだろう。心や意識、更には、人間関係や生まれながらの適性(知のDNA)等を含めたものとして、知心はどうだろう。

知識、知恵、知心を総合して、知とすれば、経営の改革の視点が見えてくる。従って、知識管理ではなく、知の経営とすると分かりやすい。

3、知の意味合い：

さて、知識に広義と狭義あるという説明では、内容が判りにくいため、狭義のナレッジは、そのまま英語の Knowledge(日本語で知識)とし、新しく図の上の3層(**知識、知恵、知心**)を、総合して **Chi(日本語で「知」)**と呼ぶことにしたい。

それは、近年のナレッジ・マネジメントが対象とした広義のナレッジから、ナレッジになっているデータ・情報(狭義のナレッジ)よりも格段に範囲の広い事実としてのデータと情報を、はずし、利活用できる情報としての知識、知恵、知を Chi(知)と拡大した。

これによって、従来のデータ・情報・知識と言われていた3層を意味するナレッジ・マネジメントから、よりフォーカスした(下の2層はベースであり、上の3層が人を表す)、また人の心理に入り込んだ日本独特の「**知の経営**」(**Chi-Management**)と使えるように、概念を明確にした。

***場(Ba)**は、知に影響を与えるため、知と知の基盤となるデータ・情報の間に「知の場」として位置づけた。

この他に知の経営のための方法論として**改善改革の 4P**(Point Process Place Periphery)、**経営のトリプルループのサイクル**(個人が P-D-S、管理が P-D-C-A 経営は S-P-D-L-I)など 4 つ、知のピラミッドを合わせて合計 5 つの Chi-Management の方策(方法論)を発表された。

* (経営のサイクル S-P-D-L-I の S は Strategy 戦略、L は Learning 学習、I は Innovation 革新の英語の頭文字)

◆「TKF2008 の報告」進 博夫氏 日本ナレッジ・マネジメント学会国際部長



(進博夫氏)

学会の国際部長である 進 博夫理事より 3/19 に行われた「TKF2008TOKYO」の報告がされた。はじめに過去 3 回の TKF の振り返り、そして今年第 4 回 2008 年の東京大会の様子を、前回筆者が作成した TKF(The Knowledge Forum)2008 写真レポートの写真等もふんだんに使っていただき詳しく説明された。

◆「今期の学会活動計画」田中孝司 日本ナレッジ・マネジメント学会理事



←(田中孝司氏)

田中孝司理事より前期の活動実績報告。学会初の書籍『「型」と場のマネジメント』の発行についてと、研究部会の新設充実ぶり等を報告。次いで今期の活動計画を発表。今年秋の第 6 回 TKF は米国ウィスコンシン州立大学を予定して計画中。また今年(2009 年)の夏 8/22 日(土)に大阪で研究発表会を予定していることも発表。その他助成制度の充実についてなど発表。

◆閉会の挨拶 久米克彦 スズキ自動車 常勤監査役



←(久米克彦氏)

久米克彦氏（日本ナレッジ・マネジメント学会理事）より閉会の挨拶があつて終了。

◆懇親会の様子

於:名城大学タワー75 15階 レセプションホール



懇親会の行われたタワー75の15階



乾杯の挨拶



手伝ってくれた大西教授ゼミの学生さん達

●筆者からのお断り●

発表者の発表の概要やコメントについては筆者の独断と偏見や個人的感想ですので、無知や失礼の段はお許しください。間違い不都合な点についてはご指摘いただければすぐに訂正して差し替えてもらいます。

松本優